

## 第1回災害時避難行動要支援者支援制度推進会議 主な内容と意見

### ○災害時要援護者支援制度の見直し（案）に対する主な意見・課題について

資料により報告

#### ○制度に関する意見交換

- ・災害への備えは地域全体でやらないといけない。
- ・「隣は何をする人ぞ」という状況で、地域の集まりにも顔を出さない人もいる。また、高齢化で助けたくても助けられなくなっている状況である。
- ・日ごろからあいさつ運動、井戸端会議でコミュニケーションが取れていれば、台帳は不要と思う。
- ・日ごろから少しずつ備えておくことで、何かあった時に何かできることがあるかもしれない。
- ・外国人だけ、日本人だけ、1つの地域だけではなく市全体で訓練してほしい。
- ・消防団は地域の情報をある程度把握しているが、災害発生時は災害現場に向かうので、自主防災組織が大切だと思う。
- ・障害児の認知度が低いため、これまでの災害では避難所に入れないことがあり車中泊せざるを得ないなど、避難所に入れない人がたくさんいた。
- ・近所付き合いの中で状況を把握できれば良いが、その輪に入っていけない人もいる。
- ・この制度は「おせっかい」なくらいでないとできないと思う。
- ・この会にいる方々が他の現状を知ることが大切。
- ・災害で大変な状況と理解できても、その次の行動ができない人がいる。そうした人たちは地域のつながりがあってこそ助けられるので、そうした支援が必要である。
- ・台帳は災害の時に必要なのではなく、災害の備えの段階で必要なものである。
- ・地域によって風水害・地震と独自の防災が必要である。各地域で、どんな災害対策が必要か考える必要がある。災害よりも日ごろの見守り活動のために台帳が必要だと思う。
- ・個人情報をごとまでオープンにするかは今後の課題。ただ、善人ばかりでなく、悪用する人も中にはいるので細心の注意が必要である。

### ○避難行動要支援者支援制度ガイドライン（案）について

資料により説明